



# Safe Crop Project News



No.26 2020年1月発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライチェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

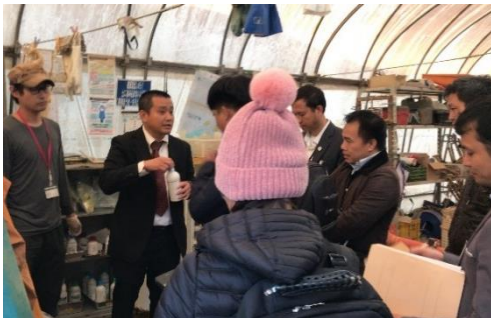
## 第3回本邦研修の報告

2019年11月18日～24日の日程で、第3回本邦研修を行いました。CPMU(Central Project Management Unit)のメンバー1名、パイロット3省（ハイズオン省、フンエン省、ハナム省）PPMU(Provincial Project Management Unit)のメンバー3名、農協・農業法人のリーダー2名で構成される6名の研修生は、「日本における安全野菜の生産・流通の仕組みについて学ぶ」という研修目的のもと、各研修先で学びを深めました。以下、2ヶ所での研修内容を簡単にご紹介します。

### 1) GLOBAL GAPを導入した農場の取り組み

(イオンアグリ創造(株) 柏農場、千葉県柏市)

同農場はGLOBAL GAPに準拠した野菜生産を行い、イオンに出荷しています。研修生は特に以下について関心を示していました。



農業及び関連する農具の管理についての説明  
(イオンアグリ創造(株) 柏農場)

- ・ 使用している農薬の種類、連作障害防止のための農業技術（輪作、防護ネット、緑肥）。
- ・ GAPに基づく、生産、包装、労働者の健康管理等の厳格な記帳。
- ・ 生産に失敗した場合にその後の作付を増やす等、生産計画の調整。
- ・ 野菜の洗浄水の毎年の検査、収穫用ハサミの管理をはじめとした農産物への病原菌や異物の混入防止の取り組み、農薬の管理・使用等、安全管理の取り組み。

### 2) 安全農産物の産地管理、流通、販売の取り組み

(パルシステム((株)ジーピーエス)、埼玉県さいたま市)



集荷した野菜の包装についての説明  
(株)ジーピーエス)

同社は契約生産者から農産物を集荷し、生活協同組合員に配達する業務を行っています。研修生は特に以下について関心を示していました。

- ・ ITシステムを活用した栽培管理、および、同社の商品担当者による農場巡回を通じた、生育状況や栽培環境の確認。
- ・ 安定的な農産物配達のため、複数の産地（キャベツの場合、約10産地）から調達する等の産地管理。
- ・ 消費者からのフィードバック取得による製品の改善。生産者のモチベーション向上へつながる、生産者へのフィードバックの共有。

研修期間中は、ある研修受入先の方が「以前受け入れた外国人研修生と比べて、今回の研修生はたくさん質問をする」と感心するほど質問があがりました。また、研修生どうして自分の地域の栽培・包装方法との違いについて移動中のバスの中で議論する等、研修生は大変熱心に研修に取り組んでいました。本研修の終盤には、研修による学びを活用するためのアクションプランを、各研修生が取りまとめました。作成されたアクションプランの一部を以下に示します。

- ・ 土壌消毒処理、遠縁の植物との輪作、コンパニオンプランツ（マリーゴールド等）の利用、有機肥料の利用。
- ・ GAP適用のための運営組織の改善および編成。
- ・ 農業保管用棚の使用、農薬の詳細な配置（粉末は棚の上方に、液体は下方に配置。）についての生産者への指導。
- ・ ガラスハウスやネットハウスを導入した野菜生産やコンピューターでの収穫物の管理。
- ・ 消費者との意見交換や、フィードバック、評価を受けることによる消費者との関係性の構築。



鉄骨ハウスを用いたトマト生産の見学  
(渡辺パイプ(株)げんき農場)

研修中、機械や施設園芸への興味

が特に強いように見受けられたことより、アクションプランの内容も大規模な投資が必要な活動が並ぶのでは、と少々心配していました。しかし、上記に示すように研修生は土壌消毒や輪作、消費者との関係構築など、金銭面や技術面で実施が現実的と思われる点に注目していました。今後、研修生自身による研修の知識・経験の活用へ向けた積極的な行動が期待されます。

その一方、課題を感じた点もありました。ある研修先でキャベツの生産の各工程におけるリスクについてディスカッションを

行った際、講師から「収穫時に使うナイフや刃こぼれしたナイフの破片が収穫物に紛れる可能性はないか？」と質問されたところ、研修生は「ナイフやその破片の混入はありえない。」と答えました。その後、研修生に対し講師から異物混入の可能性の再検討が促され、「可能性がゼロでないならば、リスクとして考慮すべき。」と説明したことで、最終的に研修生は納得したようでしたが、今後のプロジェクト活動を通じて行政職員や農家とリスクを掘り起こすことが重要と感じました。

修了式では、ある研修生から「ベトナムの農業が日本に追いつくには 30 年は必要だろう。」との声が挙がっていました。この

「30 年」という時間を縮められるよう、プロジェクトとして研修生が作成したアクションプランの実施をモニタリング、支援して参りたいと思います。



修了式 (JICA 筑波)

## イオンモールにおける意識啓発活動の作品展示会

「安全作物をうちにもって帰ろう」というスローガンを聞いて、どのようなイメージが思い浮かびますか？「安全作物に関する消費者意識啓発活動」の一環として、2019 年は 7 年生（ベトナムの中学校 2 年生\*<sup>1</sup>）がこのスローガンでポスターを描きました（詳細は NL 第 25 号に掲載）。「生産者による安全な水・土壌の確保からはじまり、安全野菜が大切に育てられ、販売店に届くまで」の、「安全野菜の道のり」について学んだ生徒たちの安全野菜への思いが反映されたポスターが、イオンモールロンビエン SC において一般公開されました。



イオンモールにおけるポスター展示会

イオンモールベトナム社に CSR 活動として会場をご提供いただいている本展示会も、今年で 3 年目を迎えました。2019 年 11 月 9 日から 9 日間、約 300 作品の中から最終選考に残った 30 点のポスターが展示され、来場者は約 4,400 名を数え、気に入ったポスターへの投票にも約 600 名が参加しました。本啓発活動の目的は、子供を通じて母親の関心を喚起し消費行動を変革させることであり、対象ターゲットがイオンモールの客層と一致します。ベトナム政府カウンターパート機関からも「有意義な民間連携イベントである」と評価されてきました。

今年はさらに進化させ、ポスター展示による関心喚起にとどまらず、展示会場内で消費者行動と連動する一連の経験ができる体験型イベントを、様々な組織・企業の協力を得て実現しました。

- ① ポスターを見て安全野菜に対する関心が喚起される（ハノイ市農業農村開発局と教育訓練局によるポスターフェスティバルの成果）
- ② 安全野菜の販売店など関連情報にアクセスする（Hanoi Promotion Agency (HPA)によるウェブサイトのデモ）
- ③ 安全野菜を購入する（イオンベトナム社による安全野菜の展示販売）
- ④ 生食も可能な安全野菜を食べる（キューピーベトナム社による試食キャンペーン）

さらに、イオンベトナム店内の野菜売り場では、同社の「野菜の安全確保のための企業努力」を紹介する店内ディスプレイ・プロモーションを同時開催しました。「伝統的市場よりスーパーの野菜の値段が高めなのはきれいな包装のため」という消費者の誤認を払拭し、生産から流通まで安全性の管理を重視するスーパーマーケットでの



イオンベトナム店内における「野菜の安全確保」に関するディスプレイ

野菜購買意欲を喚起する目的です。テーマ「安全野菜の道のり」の最終地点である安全野菜販売店で、安全野菜を目前に、消費者が野菜の安全確保について学べる仕組みにしました。

展示会最終日の 11 月 17 日には、フェイスブックページの「いいね」のオンライン投票と展示会場での得票数を合算し、一番人気の作品に「いいね賞」が贈られました。表彰式では、CPMU（Central Project Management Unit）、ハノイ市 PPMU（Provincial Project Management Unit）および協賛の HPA の出席のもと、イオンベトナム社、キューピーベトナム社、イオンモール専門店各社より中学生が喜ぶ楽しい賞品各種が提供されました。

安全な食の流通促進を担う HPA からは「同様のポスター制作イベントがあれば、HPA 主催イベントでも同様の活動をしてみたい」との意向も示され、消費者啓発のモデルケースとなりました。



2019 年「いいね賞」受賞チームとスポンサー

\*1 ベトナムの教育制度は小学校 5 年間、中学校 4 年間、高等学校 3 年間の 12 年制

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

JICA プロジェクト事務所

Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,  
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam  
Tel/Fax : +84 24 3244 4373, Email: safecropproject@gmail.com